

Profitability and Cost Management外部 自動化プロセス・ガイド リリース11.1.2.4

リリース 11.1.2.4

製作著作 © 2012, 2015

目次

Webサービスの概要	1
前提条件	1
WSDLファイル	2
WebサービスAPIリファレンス - ProfitabilityServiceの使用	2
Profitability Webサービスの操作	5
カスタム・スクリプトの操作	28
Profitability and Cost Managementサンプル・クライアント・ファイルの使用	30
ドキュメントのフィードバック	34

Webサービスの概要

Oracle Hyperion Profitability and Cost Managementで、非常に長い、または反復するプロセスの実行を簡略化するには、Oracle Web Services Manager (OWSM)を使用して自社用のカスタム・スクリプトを作成します。これにより、オンサイト従業員がプロセスを開始しなくても、Oracle Essbaseキューブのデプロイやデータの転送などのプロセスを本番環境で自動的に呼び出すことができます。

Javaアプリケーション・プログラミング・インタフェース(API)を使用してカスタム・スクリプトを生成し、Profitability and Cost Managementに対してWebサービス操作を呼出できます。使用可能な操作の全リストは、[5ページのProfitability Webサービスの操作](#)を参照してください。

カスタム・スクリプトの作成を支援するために、このインストールにはサンプル・クライアントも用意されています。サンプル・クライアントは、Profitability and Cost Managementで使用可能なWebサービス・コマンドを提供し、モデル内のデータの識別を支援します。

前提条件

Webサービスを使用して自動スクリプトを作成する前に、『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Systemインストールおよび構成ガイド』で説明されている次のコンポーネントをインストールおよび構成する必要があります:

- リポジトリ作成ユーティリティ(RCU)を実行します。Profitability and Cost Managementの「構成後のタスク」を参照してください。
- Oracle Web Services Manager (OWSM)を構成します。Profitability and Cost Managementの「Oracle Web Services Managerの構成」を参照してください。

- Webサービスのセキュリティを有効にします。Profitability and Cost Managementの「構成後のタスク」を参照してください。

このドキュメントでは、次のコンポーネントに関する作業知識があることを前提としています:

- Oracle Web Services Manager
- WSDL
- XML
- XMLスキーマ(XSD)
- SOAP

WSDLファイル

WebサービスAPIのインタフェースは、Web Services Description Language (WSDL)ドキュメントによって定義されます。WSDLはXMLベースの言語で、Webサービスを説明し、サービスの場所およびサービスが公開する操作を示します。

Profitability and Cost Management WebサービスのWSDLドキュメントを確認するには、<http://localhost:19000/profitability/ProfitabilityService?WSDL>を参照してください。

WebサービスAPIリファレンス - ProfitabilityServiceの使用

Oracle Hyperion Profitability and Cost Management WebサービスAPIリファレンス - Profitability Servicesに、Profitability Serviceのサンプル・クライアント・ファイルで使用されているWSDL Webサービス・コマンドのリストが記載されています。

操作ごとに、パラメータがハイライト表示されます。サンプル・ファイルから追加情報にナビゲートするには:

- プラス記号をクリックしてアイテムを展開し、関連付けられたコードを表示します。
- 任意のリンクをクリックすると、関連付けられた説明に接続します。たとえば、「String:applicationName」をクリックすると「Type: String」にリンクし、そのタイプに有効な値が表示されます。

特定のコーディングの詳細は、次の手順に説明するように、OTNドキュメント・ライブラリ内のOracle Hyperion Profitability and Cost Management WebサービスAPIリファレンス - Profitability Services (WebサービスJavaDoc)を参照してください。

▶ WebサービスAPIリファレンス - Profitability Servicesドキュメントにアクセスするには:

1. <http://www.oracle.com/technetwork/middleware/performance-management/documentation/index.html>にあるOTNドキュメント・ライブラリを開きます。
2. 現在のリリースを特定します。
3. サイド・メニューで、「**Financial PM Applications**」を選択します。
4. 「**Oracle Hyperion Profitability and Cost Management, Fusion Edition**」で「Web Service API Reference」を選択すると、Oracle Hyperion Profitability and Cost Management WebサービスAPIリファレンス - Profitability Services (3ページの図1のような内容)が表示されます。

図1 あるバージョンのWebサービスAPIリファレンス - ProfitabilityServiceのタイトルおよび内容

Web Service API Reference - ProfitabilityService
Release 11.1.2.2.00

Services

Service: ProfitabilityService
Namespace: <http://profitability.webservices.epm.oracle>
Location: ProfitabilityService.wsdl

+Service Definition

Interfaces (Port Types)

PortType: ProfitabilityService
Namespace: <http://profitability.webservices.epm.oracle>
Location: ProfitabilityService.wsdl

ProfitabilityService: Standard interface defining the methods and their definitions which Hyperion Profitability and Cost Management product will process as WebService methods.

Operation: applyBulkEdit
Namespace: <http://profitability.webservices.epm.oracle>
Location: ProfitabilityService.wsdl

Input Parameters:

- [string](#) applicationName:
- [bulkEditOptionsDTO](#) bulkEditOptions:

Output Parameters:

- [string](#) return:

+Operation Definition

入出力パラメータ

サブトピック

- [パラメータ・タイプ](#)
- [入力パラメータ](#)
- [出力パラメータ](#)

操作は、Profitability and Cost ManagementのWebサービスから使用できるメソッドまたはタスクです。各操作には入力パラメータの定義が必要であり、使用中のデータや、実行中のプロセスまたはタスクを制御するための出力パラメータも必要な場合がほとんどです。使用可能な操作の全リストは、[5ページのProfitability Webサービスの操作](#)を参照してください。

パラメータ・タイプ

入力および出力パラメータ、またはその他のオプションは、次のいずれかのタイプとして表示されます:

- データ転送オブジェクト(DTO) - DTOは、Profitability and Cost Managementアプリケーション・サーバーからのデータの転送または取得に使用されるフォーマットです。DTOに関連付けられている動作はありません。

たとえば、bulkEditOptionsDTOを展開すると、オブジェクト宣言とそのアクセス可能なメンバー名の詳細がオプションで指定されます。フィールド名のみが表示され、データ値は自動的に移入されません。Java開発者は、各フィールドに使用可能な"set"メソッドおよび"get"メソッドを使用して、値を設定するか既存の値を読み取る必要があります。

- ブール - ブール応答は常にTRUEまたはFALSEです。
- 文字列 - 文字列タイプは文字列コンテンツを指定する、または返すときに使用されます。例:
 - applicationName (登録されたProfitability and Cost Managementアプリケーションの名前。たとえば、BksSP82、BksDP30などがあります。)
 - xxxxStageList - モデル内のステージ名のリスト。この変数の使用例は、[18ページの表 6「CalcScriptOptionsDTO」](#)クラス内にあります。たとえば、generateStageList、calculateStageListなどがあります。
 - importConfigName - Profitability and Cost Managementアプリケーションで作成されたインポート構成の名前。
 - paths - Profitability and Cost Managementアプリケーションで作成された、有効なシステム実行パス。



注:

後続ステージの自動選択はWebサービスで使用できないため、processCalcScriptOptionsでは、clearAllStageListおよびclearAllCalculatedStageListについて、すべてのステージを入力する必要があります。

入力パラメータ

入力パラメータは操作の実行に必要な情報を提供します。

パラメータには、次の2つのタイプがあります:

- シンプル・パラメータ・タイプ - これらのパラメータは、"String"値などの基本的なJavaデータ型を使用して定義されます。たとえば、アプリケーションで使用可能なすべてのPOVのリストをフェッチする場合は、getPOVs()関数を使用して、基本Javaデータ型である入力パラメータString applicationName (アプリケーションの名前)を渡します。
- 複合パラメータ・タイプ - これらのパラメータは、DTOとして定義されます。たとえば、CopyPOVDTO、CubeDeployOptionなどがあります。

[9ページの表4「ClearPOVDTO」](#)および [13ページの表5「CubeDeployOptionsDTO」](#)を参照してください。

出力パラメータ

出力パラメータは操作によって要求される情報を提供します。

deleteApplication()などの一部の操作については、出力パラメータが生成されません。

パラメータには、次の2つのタイプがあります:

- シンプル・パラメータ・タイプ - これらのパラメータは、"String"値などの基本的なJavaデータ型を使用して定義されます。たとえば、Essbaseキューブ・デプロイメントまたはPOVデータのコピーの要求時には、TaskflowIDが生成されます。

- 複合パラメータ・タイプ - これらのパラメータは、複合データ型を使用して定義されます。たとえば、`getApplications()` Webサービス・メソッドを使用してすべての既存アプリケーションのリストを要求する際は、`List<ApplicationDTO>`が返されます。

Profitability Webサービスの操作

サブトピック

- アプリケーション・タイプ別のWebサービス操作
- `applyBulkEdit`
- `clearASOCube`
- `clearPOVData`
- `copyPOVData`
- `deleteApplication`
- `deletePOV`
- `deployCube`
- `getApplicationType`
- `getApplications`
- `getApplicationsByType`
- `getAssignmentRuleDefinitions`
- `getDriverDefinitions`
- `getPOVs`
- `getStages`
- `getTaskflowStatusByProcessName`
- `prepareDetailedViewsForReporting`
- `processCalcScripts`
- `processDetailedCalculations`
- `processGenealogyExecutionPaths`
- `processGenealogyPathsWithoutASOCubeClear`
- `processLedgerClearPOV`
- `processLedgerCopyPOV`
- `processLedgerDeployCube`
- `processMultiPOVCalcScript`
- `processRunLedgerCalculation`
- `runImportFromStaging`

カスタム・スクリプト内のPortTypeをProfitabilityServicesに設定すると、事前定義されたProfitability and Cost Management操作のリストが使用可能になります。操作の全リストは、*Oracle Hyperion Profitability and Cost Management Web* サービスAPIリファレンス - *Profitability Services*とこの項の後半にあるリストに記載されています。

カスタムProfitabilityServicePortTypeClientプログラムで必要な操作を呼び出すことにより、既存のすべてのProfitability and Cost Managementアプリケーションのリストを表示するgetApplicationsなどの特定のタスクを実行できます。



注意

Webサービス・リクエストの入力パラメータとして提供されたデータ(アプリケーション名、ステージ名、POV名またはその他の関連データ)がProfitability and Cost Managementデータベースに存在しない場合、操作は失敗するため、存在していることを確認します。

すべての操作のAPIコマンドの詳細は、*Oracle Hyperion Profitability and Cost Management Web* サービスAPIリファレンス - *Profitability Services*を参照してください。このドキュメントは、[2ページのWebサービスAPIリファレンス - ProfitabilityServiceの使用](#)に示すように、OTNDキュメント・ライブラリから入手できます



注:

次の表のすべての例は、%EPM_ORACLE_HOME%\products\Profitability\samples - BksDP30 およびBksSP82に付属しているサンプル・アプリケーション内にあります。

アプリケーション・タイプ別のWebサービス操作

次の表に、すべてのProfitability and Cost Management Webサービス操作とそれらが適用されるアプリケーション・タイプを示します。

表1 Webサービス操作とアプリケーション・タイプ

操作	標準 Profitability	詳細 Profitability	管理元帳 Profitability
7ページのapplyBulkEdit		✓	
8ページのclearASOCube	✓		
9ページのclearPOVData	✓	✓	
11ページのcopyPOVData	✓	✓	
11ページのdeleteApplication	✓	✓	✓
12ページのdeletePOV	✓	✓	✓
13ページのdeployCube	✓		
14ページのgetApplicationType	✓	✓	✓
14ページのgetApplications	✓	✓	✓
15ページのgetApplicationsByType	✓	✓	✓
15ページのgetAssignmentRuleDefinitions		✓	
15ページのgetDriverDefinitions		✓	
16ページのgetPOVs	✓	✓	✓
16ページのgetStages	✓	✓	
16ページのgetTaskflowStatusByProcessName	✓	✓	✓
17ページのprepareDetailedViewsForReporting		✓	
17ページのprocessCalcScripts	✓		
18ページのprocessDetailedCalculations		✓	
20ページのprocessGenealogyExecutionPaths	✓		
21ページのprocessGenealogyPathsWithOutASOCubeClear	✓		
22ページのprocessLedgerClearPOV			✓
23ページのprocessLedgerCopyPOV			✓
24ページのprocessLedgerDeployCube			✓
25ページのprocessMultiPOVCalcScript			✓

操作	標準 Profitability	詳細 Profitability	管理元帳 Profitability
27ページ のprocessRunLedgerCalculation			✓
28ページ のrunImportFromStaging	✓	✓	

applyBulkEdit

この操作を使用して、指定されたソース割当てルールバルク編集を宛先ルール、またはProfitability and Cost Managementの詳細アプリケーションのドライバによって実行します。詳細Profitabilityアプリケーションに対して使用しません。

入力パラメータ

- *String applicationName* - このバルク編集操作が適用される対象のProfitability and Cost Managementアプリケーションの名前。
- オプション: *BulkEditOptionsDTO bulkEditOptions* - 「バルク編集の適用」操作の実行に必要な情報が含まれるDTO。

表2 BulkEditOptionsDTO

変数	説明	例
sourceRules	このバルク編集操作に選択されているソース割当てルール名のリスト。	すべての構築アクティビティの適用
destinationRules	このバルク編集操作に選択されている宛先割当てルール名のリスト。 注: この値は、BulkEditOperations.ADD_ASSIGNMENT_RULESとBulkEditOperations.REMOVE_ASSIGNMENT_RULES操作の両方によってのみ渡される必要があります。	販売オーダーから請求書
drivers	このバルク編集操作の一環として、選択されたソース割当てルールに適用されるドライバの名前。 注: BulkEditOperations.ADD_DRIVER操作の使用時は1つのドライバ名のみが提供されますが、BulkEditOperations.REMOVE_DRIVERS操作の使用時はドライバ名のリストが提供される場合があります	DRVビルド製品
operation	バルク編集操作を指定します: ○ ADD_DRIVERS ○ REMOVE_DRIVERS ○ ADD_ASSIGNMENT_RULES ○ REMOVE_ASSIGNMENT_RULES	ADD_DRIVERS

変数	説明	例
povGrp	このバルク編集操作が適用される対象のPOVのディメンション・メンバー名を指定します: <ul style="list-style-type: none"> ○ povDimensionMember1 ○ povDimensionMember2 ○ povDimensionMember3 ○ povDimensionMember4 ○ povState 	<pre>povDimensionMember1 = 2012 povDimensionMember2 = January povDimensionMember3 = Actual Draft</pre>
selectAllRulesOrDriversForDelete	すべての宛先割当てルールまたはドライバを、削除のために選択する必要があるかどうかを示すブール・フラグ。有効な値はTRUEまたはFALSEです。 注: この値は、BulkEditOperations.REMOVE_DRIVERS および BulkEditOperations.REMOVE_ASSIGNMENT_RULES によってのみ渡される必要があります。	FALSE
selectEntireStageForDelete	ステージ全体を削除のために選択する必要があるかどうかを示すブール・フラグ。 有効な値はTRUEまたはFALSEです。	FALSE
comment	このバルク編集操作のコメントを指定します。	"ドライバを追加するためのバルク編集操作"

出力パラメータ

@return String - この操作に対して生成されたCESタスクID。



注:

16ページのgetTaskflowStatusByProcessName操作を使用して、「(「タスクフロー・ステータス(要約)」に表示される)このCESタスクフロー名」のステータスを取得します。

clearASOCube

この操作を使用して、アプリケーション名、POVおよびレイヤーの特定の組合せに対するASOキューブをクリアします。この操作は、標準Profitabilityアプリケーションを対象としています。

入力パラメータ

- String applicationName - 使用するProfitability and Cost Managementアプリケーションの名前。

- *povMemberGroupDTO pov* - POV情報

表3 POVMemberGroupDTO

変数	説明	例
povDimensionMember1	位置1のPOVディメンション・メンバー名	2012
povDimensionMember2	位置2のPOVディメンション・メンバー名	January
povDimensionMember3	位置3のPOVディメンション・メンバー名	Actual
povDimensionMember4	位置4のPOVディメンション・メンバー名	Plan
povState	POVの状態。有効な値は「ドラフト」、「公開済」または「アーカイブ済」	Draft

- *layer layerName* - レイヤー名。例: COST、REVENUE

出力パラメータ

@return String - このタスクに対して生成されたCESタスクID。



注:

16ページの[getTaskflowStatusByProcessName](#)操作を使用して、「(「タスクフロー・ステータス(要約)」に表示される)このCESタスクフロー名のステータスを取得します。

clearPOVData

この操作を使用して、選択ステージおよびその他の詳細のPOVデータをクリアします。標準Profitabilityおよび詳細Profitabilityアプリケーションに対して使用します。

入力パラメータ

- *String applicationName* - Profitability and Cost Managementアプリケーションの名前。
- *ClearPOVDTO clearPOVData* - POV消去オプション。

表4 ClearPOVDTO

変数	説明	例
clearAssignmentRuleSelections	割当てルールの選択をクリアするかどうかを指定するブール・フラグ。有効な値はTRUEまたはFALSEです。	TRUE
clearCalculationRules	計算ルールをクリアするかどうかを指定するブール・フラグ。有効な値はTRUEまたはFALSEです。	TRUE

変数	説明	例
clearCostLayer	費用レイヤーをクリアするかどうかを指定するブール・フラグ。有効な値はTRUEまたはFALSEです。	TRUE
clearDriverSelectionExceptions	ドライバの選択の例外をクリアするかどうかを指定するブール・フラグ。有効な値はTRUEまたはFALSEです。	TRUE
clearDriverSelectionRules	ドライバの選択ルールをクリアするかどうかを指定するブール・フラグ。有効な値はTRUEまたはFALSEです。	TRUE
clearRegularAssignments	通常の割当てをクリアするかどうかを指定するブール・フラグ。有効な値はTRUEまたはFALSEです。	TRUE
clearRevenueLayer	収益レイヤーをクリアするかどうかを指定するブール・フラグ。有効な値はTRUEまたはFALSEです。	TRUE
pov	このバルク編集操作が適用される対象のPOVのディメンション・メンバー名を指定します: <ul style="list-style-type: none"> • povDimensionMember1 • povDimensionMember2 • povDimensionMember3 • povDimensionMember4 • povState 	<pre>povDimensionMember1 = 2012 povDimensionMember2 = January povDimensionMember3 = Actual povState = Draft</pre>
povGrp	このバルク編集操作が適用される対象のPOVのディメンション・メンバー名を指定します: <ul style="list-style-type: none"> • povDimensionMember1 • povDimensionMember2 • povDimensionMember3 • povDimensionMember4 • povState 	<pre>povDimensionMember1 = 2012 povDimensionMember2 = January povDimensionMember3 = Actual povState = Draft</pre>
stages	このバルク編集操作が適用される対象のPOVのディメンション・メンバー名を指定します: <ul style="list-style-type: none"> • stages 1 • stages 2 • stages 3 • stages N, stages N = [displayOrder = (int), 例: 1; stageName = (string)] 	元帳データ

出力パラメータ

POVデータは即時にクリアされるため、この操作の戻り値(または)出力パラメータはありません。

copyPOVData

この操作を使用して、モデル・アーティファクトとソースPOVの組合せのデータを、宛先POVの組合せにコピーします。この操作は、画面で「モデルの管理」、「POVマネージャ」、「コピー」の順に選択することでサポートされる機能に対応しています。標準Profitabilityおよび詳細Profitabilityアプリケーションに対して使用します。

入力パラメータ

- *String applicationName* - copyPOVData操作が実行される対象のProfitability and Cost Managementアプリケーションの名前。
- *CopyPOVDTO copyPOVData* - POVのコピー機能の選択詳細。このDTOのすべてのブール値は、「モデルの管理」、「POVマネージャ」、次に「コピー」の画面で使用できるチェック・ボックスに対応しています。9ページの表4「ClearPOVDTO」を参照してください。

出力パラメータ

@return String - この操作に対して生成されたCESタスクID。



注:

16ページのgetTaskflowStatusByProcessName操作を使用して、「(タスクフロー・ステータス(要約))」に表示されるこのCESタスクフロー名のステータスを取得します。

deleteApplication

この操作を使用して既存のProfitability and Cost Managementアプリケーションと、そのOracle Hyperion Shared Servicesとの関連付けを削除します。標準Profitability、詳細Profitabilityおよび管理元帳Profitabilityアプリケーションに対して使用します。



注意

deleteApplication操作では、すべてのPOVおよび関連するEssbaseキューブのモデル・データ全部が削除されるため、慎重に実行してください。



注:

アプリケーションは、Oracle Hyperion EPM Architectライブラリでは引き続き使用可能です。このアプリケーションをProfitability and Cost Managementに再デプロイするには、Oracle Hyperion EPM Architectで「診断」を実行し、ステータスを「未デプロイ」に戻して設定します。

入力パラメータ

String applicationName - Profitability and Cost Managementデータベースから削除される予定で、Oracle Hyperion Shared Servicesに未登録のアプリケーションの名前。

出力パラメータ

なし。

deletePOV

この操作を使用して、Profitability and Cost Managementアプリケーションの既存のPOVを削除します。標準Profitability、詳細Profitabilityおよび管理元帳Profitabilityアプリケーションに対して使用します。



注意

このPOVに関連付けられたすべてのモデル・データもこの操作によって削除されるため、操作の使用時には注意してください。

入力パラメータ

- *String applicationName* - POVが削除される対象のProfitability and Cost Managementアプリケーションの名前。
- *POVMemberGroupDTO povDTO* - このバルク編集操作が適用される対象のPOVのディメンション・メンバー名を指定します。9ページの表3「[POVMemberGroupDTO](#)」を参照してください。
- *layerName* - 有効な値: COST、REVENUE

この操作を設定する場合、次の条件が適用されます:

1. 操作には少なくとも1つのPOVディメンション・メンバー名が必要です。
2. 値は、アプリケーションで定義されている変数のみに設定できます。POVが2つのPOVディメンションを使用して定義されている場合は、*povDimensionMember1*および*povDimensionMember2*に対する値のみを指定します。その他の値は"NULL"のままにします。
3. *povState*は、*getPOVs*操作が使用される場合のみ代入されます。このフィールドは、いずれかの操作で*POVMemberGroupDTO*をパラメータとして渡すときは不要です。9ページの表3「[POVMemberGroupDTO](#)」を参照してください。

出力パラメータ

なし。

deployCube

この操作を使用して、選択した標準Profitabilityアプリケーションの計算キューブまたはレポート・キューブを、デプロイまたは再デプロイします。

CubeDeployOptionsDTOオプションは、「計算」を選択したときのアプリケーションのラジオ・ボタンおよびチェック・ボックスに関連しています。

入力パラメータ

- *String applicationName* - デプロイまたは再デプロイの対象となる、Profitability and Cost Managementアプリケーションの計算キューブまたはレポート・キューブの名前。
- *CubeDeployOptionsDTO cubeDeployOptions* - キューブのデプロイに関する選択詳細を入力します。

表5 CubeDeployOptionsDTO

変数	説明	例
cubeType	有効な値: ○ CALCULATION_CUBE ○ REPORTING_CUBE	CALCULATION_CUBE REPORTING_CUBE
firstTimeDeployment	このアプリケーションで初めてキューブがデプロイメントされているかどうかを示すブール・フラグ。有効な値はTRUEまたはFALSEです。	FALSE
updateDatabase replaceDatabase	どちらの変数もアプリケーションのラジオ・ボタンに関連するため、いずれか一方のみをTRUEに設定する必要があります。データベースを更新するかどうかを示すブール・フラグ。有効な値はTRUEまたはFALSEです。 注: その他のパラメータ (archiveDataBeforeDeploy、archiveDataAndReloadAfterDeploy、deleteDataArchiveAfterReload)は、updateDatabaseがTRUEに設定されている場合にのみTRUEに設定できます。	TRUE
archiveDataBeforeDeploy	デプロイメントの開始前にデータをアーカイブするかどうかを示すブール・フラグ。有効な値はTRUEまたはFALSEです。	TRUE
archiveDataAndReloadAfterDeploy	デプロイメント前にアーカイブされたデータを、デプロイメントの完了後にリロードするかどうかを示すブール・フラグ。有効な値はTRUEまたはFALSEです。	TRUE
deleteDataArchiveAfterReload	アーカイブされたデータをリロード後に削除するかどうかを示すブール・フラ	TRUE

変数	説明	例
	ブ。有効な値はTRUEまたはFALSEです。	

出力パラメータ

@return String- キューブのデプロイ・アクション用として生成されたCESタスクフローID。



注:

16ページのgetTaskflowStatusByProcessName操作を使用して、「(タスクフロー・ステータス(要約)」に表示される)このCESタスクフロー名のステータスを取得します。

getApplicationType

この操作を使用すると、既存のProfitability and Cost Managementアプリケーションのアプリケーション・タイプがStandard (標準Profitabilityの場合)、Detail (詳細Profitabilityの場合)またはManagement Ledger (管理元帳Profitabilityの場合)として表示されます。

入力パラメータ

String applicationName - アプリケーション・タイプが取得される対象のProfitability and Cost Managementアプリケーションの名前。

出力パラメータ

@return String - ApplicationType return - 次のタイプが返されます:

- GENERAL (標準Profitabilityアプリケーションの場合)
- DETAIL (詳細Profitabilityアプリケーションの場合)

getApplications

この操作を使用して既存のProfitability and Cost Managementアプリケーションをすべてリストします。標準Profitability、詳細Profitabilityおよび管理元帳Profitabilityアプリケーションに対して使用します。

入力パラメータ

なし。

出力パラメータ

@return List<ApplicationDTO> - アプリケーション情報が含まれるApplicationDTOのリスト。

getApplicationsByType

この操作を使用して、選択したタイプのProfitability and Cost Managementアプリケーションをすべてリストします。標準Profitability、詳細Profitabilityおよび管理元帳Profitabilityアプリケーションに対して使用します。

入力パラメータ

String applicationType - Profitability and Cost Managementアプリケーション・サーバーからフェッチされるアプリケーションのタイプを指定します。有効な値は次のとおりです:

- GENERAL (標準Profitabilityアプリケーションの場合)
- DETAIL (詳細Profitabilityアプリケーションの場合)

出力パラメータ

@return List<ApplicationDTO> - 選択したタイプのアプリケーションのリストを返します。

getAssignmentRuleDefinitions

この操作を使用して、指定された詳細Profitabilityアプリケーションの特定のステージに対して、(関連付けではなく)割当てルールの定義をすべて取得します。

入力パラメータ

- String applicationName - 割当てルールの定義が取得される対象の詳細Profitability and Cost Managementアプリケーションの名前。
- String stageName - 割当てルールの定義を取得する対象のステージ名を指定します。

出力パラメータ

@return List<AssignmentRuleDTO> - 前述の入力パラメータに一致するAssignmentRuleDTOのリスト。

getDriverDefinitions

この操作を使用して、詳細Profitabilityアプリケーションのドライバ定義をすべてリストします。

入力パラメータ

String applicationName - ドライバ定義を表示する対象の詳細Profitability and Cost Managementアプリケーションの名前。

出力パラメータ

@return List<DriverDTO> - DriverDTOのリストを返します。

getPOVs

この操作を使用して、選択したアプリケーションのすべてのPOV詳細を取得します。標準Profitability、詳細Profitabilityおよび管理元帳Profitabilityアプリケーションに対して使用します。

入力パラメータ

String applicationName - POVが取得される対象のProfitability and Cost Managementアプリケーションの名前。

出力パラメータ

@return List<POVMemberGroupDTO> - POV情報が含まれるPOVMemberGroupDTOのリスト。関連付けられているメンバーのリストは、[9ページの表3「POVMemberGroupDTO」](#)を参照してください。

getStages

この操作を使用して、選択した標準Profitabilityまたは詳細Profitabilityアプリケーションのステージ詳細をすべて取得します。このコマンドを使用して、ステージの名前および表示順序を検索できます。

入力パラメータ

String applicationName - ステージ詳細が取得される対象のProfitability and Cost Managementアプリケーションの名前。

出力パラメータ

@return List<StageDTO> - ステージ情報が含まれるStageDTOのリストを返します。

getTaskflowStatusByProcessName

この操作を使用して、ジョブ・プロセス名の現在のステータス(CESタスクフロー)を、タスクフロー・ステータス(要約)に表示されるとおりに参照します。有効なステータスは、新規、アクティブ、停止済および完了です。標準Profitability、詳細Profitabilityおよび管理元帳Profitabilityアプリケーションに対して使用します。

入力パラメータ

String processName - ステータスを取得するCESプロセス名。

出力パラメータ

@return String- 指定したタスクフロー・プロセス名のすべてのタスクとそのステータスのカンマ区切りの値。これは、アプリケーション内の「タスクフロー・ステータス」画面上のタスクフローです。

たとえば、12345および123455というIDで作成された2つのタスクがプロセスにある場合、タスクIDおよびステータスは次のように表示されます: 12345=Done, 123455=Active。

prepareDetailedViewsForReporting

この操作を使用して、詳細Profitability and Cost Managementアプリケーションのビューを用意します。

入力パラメータ

- *String applicationName* - レポート用ビューが用意される対象の詳細Profitability and Cost Managementアプリケーションの名前。
- *List<DimensionDTO> dimensions* - レポート用ビューの生成に含まれるディメンションの、名前および短い名前のプロパティのリストを指定します。

出力パラメータ

なし。

processCalcScripts

この操作を使用して、選択した標準Profitabilityアプリケーションのプロセスを開始し、計算スクリプトを実行します。次のアクションは、アプリケーションの「計算の管理」タブ上のチェック・ボックスに関連します:

- すべてクリア
- 計算済のクリア
- 生成
- 計算
- 計算後にデータを転送



注:

`clearAllStageList`または`clearAllCalculatedStageList`の場合、クリアするすべてのステージ名をリストします。どのステージもクリアしない場合は、空の引用符を使用します

入力パラメータ

- *String applicationName* - 選択したオプションに応じて、計算スクリプトが生成および実行される対象の標準 Profitability and Cost Management アプリケーションの名前。
- *CalcScriptOptionsDTO options*: - 計算スクリプトの処理に関する選択詳細。

表6 CalcScriptOptionsDTO

変数	説明	例
povGrp	計算スクリプトの生成および実行が、実行される対象の POV 情報。9 ページの表 3「POVMemberGroupDTO」を参照してください。	povDimensionMember1=2012 povDimensionMember2=March povDimensionMember3=Actual povState=Draft
layerName	計算スクリプトが生成および実行される対象のレイヤー名。有効な値: ○ COST ○ REVENUE	COST
clearCalculatedStageList	計算済データのクリアが必要とされるステージ名のリスト。	会計データ、アクティビティ
clearAllStageList	すべての情報のクリアが必要とされるステージ名のリスト。	会計データ、アクティビティ
generateStageList	計算スクリプトの生成が必要とされるステージ名のリスト。	会計データ、アクティビティ
calculateStageList	計算スクリプトの実行が必要とされるステージ名のリスト。	会計データ、アクティビティ
transferData	データ転送の実行が必要かどうかを指定するブール・フラグ。有効な値は TRUE または FALSE です。	FALSE

出力パラメータ

@return String - この操作に対して生成された CES タスク ID。



注:

16 ページの `getTaskflowStatusByProcessName` 操作を使用して、(「タスクフロー・ステータス(要約)」に表示される)この CES タスクフロー名のステータスを取得します。

processDetailedCalculations

この操作を使用して、選択した詳細 Profitability アプリケーションの計算を処理および実行します。次のアクションは、アプリケーションの「計算の管理」タブ上のチェック・ボックスに関連します:

- clearCalculated - 「処理のオプション」、次に「計算済の値をクリア」
- createContributionDetail - 「処理のオプション」、次に「計算の実行」、次に「コントリビューションの詳細の作成」
- createDetailCalculatedDriverTables - 「処理のオプション」、次に「計算の実行」、次に「計算済ドライバ表の詳細の作成」
- executeCalculations - 「処理のオプション」、次に「計算の実行」
- runSingleCalcRuleSequence - 「処理のオプション」、次に「単一の計算ルール・シーケンスの実行」
- abortOnError - 「処理のオプション」、次に「制限されたソース・セットでのプレビュー」
- transferToContribDb - 「処理のオプション」、次に「データ転送」、次に「コントリビューション・データベース」
- transferToDstStgDb - 「処理のオプション」、次に「データ転送」、次に「宛先ステージ・データベース」
- transferToSrcStgDb - 「処理のオプション」、次に「データ転送」、次に「ソース・ステージ・データベース」

入力パラメータ

- *String applicationName* - 計算される対象の詳細Profitability and Cost Managementアプリケーションの名前。
- *DetailedCalculationOptionsDTO calc options* - 計算を実行するための選択詳細。

表7 DetailedCalculationOptionsDTO

変数	説明	例
clearCalculated	前に計算した値をクリアするかどうかを指定するブール・フラグ。有効な値はTRUEまたはFALSEです。	TRUE
executeCalculations	この操作の一環として計算を実行するかどうかを指定するブール・フラグ。有効な値はTRUEまたはFALSEです。 注： executeCalculationsフラグがTRUEに設定されている場合、createContributionDetail、createDriverTablesおよびrunSingleCalcRuleSequenceの値を指定する必要があります。	TRUE
createContributionDetail	コントリビューションの詳細を作成することを指定するブール・フラグ。有効な値はTRUEまたはFALSEです。	TRUE
createDetailCalculatedDriverTables	計算済ドライバ表を作成するかどうかを指定するブール・フラグ。	TRUE
dataPOVMemberGroups	計算時にデータPOVについて考慮が必要なPOVディメンション・メンバー・グループの詳細リスト。 9ページの表 3「POVMemberGroupDTO」 を参照してください。	povDimensionMember1=2012 povDimensionMember2=January povDimensionMember3=Actual
modelPOVMemberGroup	計算の実行時の、モデルPOVディメンション・メンバー・グループの詳細。	povDimensionMember1=2012

変数	説明	例
		povDimensionMember2=January povDimensionMember3=Actual
runSingleCalcRuleSequence	計算時に単一の計算ルール・シーケンスを考慮するかどうかを指定するブール・フラグ。有効な値はTRUEまたはFALSEです。	FALSE
postScript	計算後スクリプトの名前	POST
preScript	計算前スクリプトの名前	PRE
calcRuleSequence	計算ルール・シーケンス値。	有効な値は1 - 9999です。
transferToSrcStgDb	ソース・ステージ・データベースに対してデータ転送を実行するかどうかを指定するブール・フラグ。	有効な値はTRUEまたはFALSEです。
transferToDstStgDb	宛先ステージ・データベースに対してデータ転送を実行するかどうかを指定するブール・フラグ。	有効な値はTRUEまたはFALSEです。
transferToContribDb	コントリビューション・データベースに対してデータ転送を実行するかどうかを指定するブール・フラグ。	有効な値はTRUEまたはFALSEです。
abortOnError	有効な値はTRUEまたはFALSEです。	TRUE
comment	(文字列)	オプションのフィールド

出力パラメータ

@return String - この操作に対して生成されたCESタスクID。



注:

16ページのgetTaskflowStatusByProcessName操作を使用して、(「タスクフロー・ステータス(要約)」に表示される)このCESタスクフロー名のステータスを取得します。

processGenealogyExecutionPaths

この操作を使用して、選択した標準Profitabilityアプリケーションに対して定義されている系統パスを実行します。次のアクションは、「計算」、「計算の管理」、「系統」タブの順に選択したときのチェック・ボックスに関連します。

入力パラメータ

- String applicationName - 系統パスが計算される対象のProfitability and Cost Managementアプリケーションの名前。
- GenealogyOptionsDTO genealogyInfo - 系統パスの実行に関する選択詳細。

表8 GenealogyOptionsDTO

変数	説明	例
layerName	系統実行パスが実行される対象のレイヤー名。有効な値は次のとおりです: ○ COST ○ REVENUE	Layer.COST
paths	系統実行パスのリスト	1-3-5
povGrp	この系統パスの実行に関連するPOV デイメンション・メンバー・グループ情報を 指定します。 9ページの表 3「POVMemberGroupDTO」を参照して ください。	povDimensionMember1=2012 povDimensionMember2=January povDimensionMember3=Actual povState=Draft

出力パラメータ

@return String - この操作に対して生成されたCESタスクID。



注:

16ページの[getTaskflowStatusByProcessName](#)操作を使用して、「(タスクフロー・ステータス(要約)」に表示される)このCESタスクフロー名のステータスを取得します。

processGenealogyPathsWithoutASOCubeClear

この操作を使用して、そのPOVとレイヤーの組合せに対するASOキューブをクリアせずに系統コントリビューション・パスを実行します。この操作は、標準Profitabilityアプリケーションに対して使用します。



注:

このWebサービス操作の使用目的は、標準原価計算Profitability and Cost Managementアプリケーションで複数のPOVに対して系統を実行することです。processGenealogyPathsWithoutASOCubeClearは、同じPOVに対して複数の系統計算を実行するためのものではありません。

入力パラメータ

- String applicationName - Profitability and Cost Managementアプリケーションの名前。

- *GenealogyOptionsDTO* genealogyInfo - 系統パスの実行に関する選択詳細。21ページの表 8を参照してください

出力パラメータ

@return String - 系統パスの実行用として生成されたCESタスクID。



注:

16ページのgetTaskflowStatusByProcessName操作を使用して、「(タスクフロー・ステータス(要約)」に表示される)このCESタスクフロー名のステータスを取得します。

processLedgerClearPOV

この操作を使用して、管理元帳アプリケーションのPOVの組合せからモデル・アーティファクトとデータをクリアします。この操作は、視点マネージャ画面のPOVデータのクリア・コントロールでサポートされる機能に対応しています。管理元帳Profitabilityアプリケーションに対して使用します。

入力パラメータ

- *String applicationName* - clearPOVData操作が実行される対象のProfitability and Cost Management管理元帳アプリケーションの名前。
- *LedgerClearPOVOptionsDTO* clearPOVData (22ページの表9) - POVのクリア機能の選択詳細。このDTOのすべてのブール値は、視点マネージャの「POVのクリア」画面にあるチェック・ボックスに対応しています。

表9 LedgerClearPOVOptionsDTO

変数	説明	例
povGrp	このPOVのクリア操作が適用されるPOVのディメンション・メンバー名を指定します: <ul style="list-style-type: none"> • povDimensionMember1 • povDimensionMember2 • povDimensionMember3 • povDimensionMember4 	povDimensionMember1 = 2012 povDimensionMember2 = January povDimensionMember3 = Actual
manageRule	ルール管理データをクリアするかどうかを指定するブール・フラグ。有効な値はTRUEまたはFALSEです。	TRUE
inputData	入力データをクリアするかどうかを指定するブール・フラグ。有効な値はTRUEまたはFALSEです。	TRUE
adjustmentValues	調整の値をクリアするかどうかを指定するブール・フラグ。有効な値はTRUEまたはFALSEです。	TRUE

変数	説明	例
allocatedValues	ドライバ割当て値のデータをクリアするかどうかを指定するブール・フラグ。有効な値はTRUEまたはFALSEです。	TRUE

出力パラメータ

@return String - この操作に対して生成されたCESタスクID。



注:

getTaskflowStatusByProcessName操作を使用して、このCESタスクIDのステータスを取得できません。16ページのgetTaskflowStatusByProcessNameを参照してください。

processLedgerCopyPOV

この操作を使用して、モデル・アーティファクトとソースPOVの組合せのデータを、管理元帳アプリケーションの宛先POVの組合せにコピーします。この操作は、視点マネージャ画面のPOVデータのコピー・コントロールでサポートされる機能に対応しています。管理元帳Profitabilityアプリケーションに対して使用します。

入力パラメータ

- *String applicationName* - copyPOVData操作が実行される対象のProfitability and Cost Management管理元帳アプリケーションの名前。
- *LedgerCopyPOVOptionsDTO copyPOVData* (23ページの表10「LedgerCopyPOVOptionsDTO」) - POVのコピー機能の選択詳細。このDTOのすべてのブール値は、視点マネージャの「POVのコピー」画面にあるチェック・ボックスに対応しています。

表10 LedgerCopyPOVOptionsDTO

変数	説明	例
srcPovGrp	このPOVのコピー操作が実行されるPOVのディメンション・メンバー名を指定します: <ul style="list-style-type: none"> • povDimensionMember1 • povDimensionMember2 • povDimensionMember3 • povDimensionMember4 	povDimensionMember1 = 2012 povDimensionMember2 = January povDimensionMember3 = Actual
destPovGrp	このPOVのコピー操作が適用されるPOVのディメンション・メンバー名を指定します: <ul style="list-style-type: none"> • povDimensionMember1 • povDimensionMember2 	povDimensionMember1 = 2012 povDimensionMember2 = March povDimensionMember3 = Actual

変数	説明	例
	<ul style="list-style-type: none"> povDimensionMember3 povDimensionMember4 	
manageRule	ルールの管理データをコピーするかどうかを指定するブール・フラグ。有効な値はTRUEまたはFALSEです。	TRUE
inputData	入力データをコピーするかどうかを指定するブール・フラグ。有効な値はTRUEまたはFALSEです。	TRUE
adjustmentValues	調整の値をコピーするかどうかを指定するブール・フラグ。有効な値はTRUEまたはFALSEです。	TRUE
allocatedValues	ドライバ割当て値のデータをコピーするかどうかを指定するブール・フラグ。有効な値はTRUEまたはFALSEです。	TRUE

出力パラメータ

@return String - この操作に対して生成されたCESタスクID。



注:

getTaskFlowStatusByProcessName操作を使用して、このCESタスクIDのステータスを取得できません。16ページのgetTaskflowStatusByProcessNameを参照してください。

processLedgerDeployCube

この操作を使用して、選択した管理元帳Profitabilityアプリケーションの計算キューブをデプロイまたは再デプロイします。

LedgerDeployOptionsDTOオプションは、「データベースの管理」画面で「キューブのデプロイ」を選択したときにアプリケーションに表示されるチェック・ボックスに関連しています。

入力パラメータ

- String applicationName - キューブのデプロイ操作が実行される対象のProfitability and Cost Management管理元帳アプリケーションの名前。
- LedgerDeployOptionsDTO ledgerDeployOptions (24ページの表11) - キューブのデプロイの選択詳細。

表11 LedgerDeployOptionsDTO

変数	説明	例
keepData	Essbaseデータを保持する必要があるかどうかを指定するブール・フラグ。有効な値はTRUEまたはFALSEです。	FALSE

変数	説明	例
replaceCube	Essbaseキューブを置換するかどうかを指定するブール・フラグ。有効な値はTRUEまたはFALSEです。	TRUE
runNow	ただちに実行するか後で実行するかを指定するブール・フラグ。有効な値はTRUEまたはFALSEです。	FALSE
comment	この管理元帳のキューブのデプロイ操作に関するコメントを指定できます。	"Ledger Deploy Operation for deployment"

出力パラメータ

@return String- キューブのデプロイ・アクション用として生成されたプロセス・ジョブID。



注:

getTaskFlowStatusByProcessName操作を使用して、このCESタスクIDのステータスを取得できます。16ページのgetTaskflowStatusByProcessNameを参照してください。

processMultiPOVCalcScript

この操作は、逐次モードおよび同時実行モードでの標準Profitabilityアプリケーションの複数POV計算をサポートしています。この操作を使用して、選択したPOV範囲について、選択した標準Profitabilityアプリケーションのプロセスを開始し、計算スクリプトを実行します。

次のアクションは、アプリケーションの「計算の管理」タブ上のチェック・ボックスに関連します:

- ClearCalculated
- 生成
- 計算



注:

操作はアプリケーション内のすべてのステージで実行されます。生成される計算スクリプトは、ユーザー・インタフェースまたは1つのCalc Webサービスから1つのPOVに対して生成されるものとは異なります。生成された計算スクリプトが、開始POVグループ(startPovGrp)と終了POVグループ(endPovGrp)の間のすべてのメンバーに適用されます。開始グループと終了グループの間で変更できるディメンションは1つのみです。開始グループ(startPovGrp)と終了グループ(endPovGrp)の1つの式を使用してすべてのPOVを表現できない場合、ユーザーは、複数の呼出しを発行する必要があります。

入力パラメータ

- String applicationName - 計算するProfitability and Cost Management標準Profitabilityアプリケーションの名前。

- *MultiPOVCalcScriptOptionsDTO MultiPOVCalcScriptOptions* (26ページの表12) - 計算スクリプトの処理に関する選択詳細。

表12 MultiPOVCalcScriptOptionsDTO

変数	説明	例
startPOVGrp	計算スクリプトの生成および実行が、実行される対象の開始POV情報を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • povDimensionMember1 • povDimensionMember2 • povDimensionMember3 • povDimensionMember4 	povDimensionMember1 = 2012 povDimensionMember2 = March povDimensionMember3 = Actual povState=Draft
endPOVGrp	計算スクリプトの生成および実行が、実行される対象の終了POV情報を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • povDimensionMember1 • povDimensionMember2 • povDimensionMember3 • povDimensionMember4 	povDimensionMember1 = 2012 povDimensionMember2 = June povDimensionMember3 = Actual povState=Draft
layerName	計算スクリプトが生成および実行される対象のレイヤー名。有効な値: COSTおよびREVENUE	COST
clearCalculatedData	計算データをクリアする必要があるかどうかを指定するブール・フラグ。有効な値はTRUEまたはFALSEです。	TRUE
saveScripts	生成された計算スクリプトを保存する必要があるかどうかを指定するブール・フラグ。有効な値はTRUEまたはFALSEです。	FALSE

出力パラメータ

@return String- 計算アクション用として生成されたプロセス・ジョブID。



注:

getTaskFlowStatusByProcessName操作を使用して、このCESタスクIDのステータスを取得できません。16ページのgetTaskflowStatusByProcessNameを参照してください。

詳細

ProcessMultiPOVCalcScripts操作は、アプリケーション内のすべてのステージの計算を実行するPOVの範囲を受け取ります。計算済のデータをすべてクリアし(clearCalculatedDataフラグがTRUEに設定されている場合)、指定されたPOV範

囲の計算スクリプトを生成して実行します。saveScriptsフラグは、生成されたスクリプトを実行終了時に保存するかどうかを決定します。

操作の次の実行時に、生成されたスクリプトが存在する場合はクリアされます。

processRunLedgerCalculation

この操作を使用して、選択した管理元帳Profitabilityアプリケーションの計算を実行します。

LedgerCalculationOptionsDTOオプションは、「計算の管理」画面で「計算の実行」を選択したときにアプリケーションに表示されるチェック・ボックスに関連しています。

入力パラメータ

- *String applicationName* - 計算するProfitability and Cost Management管理元帳アプリケーションの名前。
- *LedgerCalculationOptionsDTO ledgerCalculationOptions* (27ページの表13) - 処理範囲を選択します。

表13 LedgerCalculationOptionsDTO

変数	説明	例
clearCalculated	Essbaseデータをクリアする必要があるかどうかを指定するブール・フラグ。有効な値はTRUEまたはFALSEです。	FALSE
executeCalculations	Oracle Essbaseキューブ計算を実行する必要があるかどうかを指定するブール・フラグ。有効な値はTRUEまたはFALSEです。	TRUE
runNow	ただちに実行するか後で実行するかを指定するブール・フラグ。有効な値はTRUEまたはFALSEです。	FALSE
povGrp	この計算操作が適用されるPOVのデメンション・メンバー名を指定します: <ul style="list-style-type: none"> • povDimensionMember1 • povDimensionMember2 • povDimensionMember3 • povDimensionMember4 	povDimensionMember1 = 2012 povDimensionMember2 = January povDimensionMember3 = Actual
comment	この管理元帳の計算の実行操作に関するコメントを指定できます。	"Ledger Run Calculation Operation for deployment"
subsetStart	開始計算範囲のruleSet IDを指定します	12849
subsetEnd	終了計算範囲のruleSet IDを指定します。	12859
ruleName	計算が実行されるルールの名前。	allocationRule
ruleSetName	ruleNameが属するruleSetの名前。	allocationRuleSet

変数	説明	例
exeType	想定される値は次のとおりです: ALL_RULES、RULESET_SUBSET、ONE_RULE	ONE_RULE

出力パラメータ

@return String- 計算アクション用として生成されたプロセス・ジョブID。



注:

getTaskFlowStatusByProcessName操作を使用して、このCESタスクIDのステータスを取得できません。16ページのgetTaskflowStatusByProcessNameを参照してください。

runImportFromStaging

この操作を使用して、ステージング表から標準または詳細Profitability and Cost Managementアプリケーションへの選択済のインポートを起動します。

入力パラメータ

- String applicationName - インポート構成によってデータがインポートされる対象のProfitability and Cost Managementアプリケーションの名前。
- String importConfigName - 実行するインポート構成の名前。

出力パラメータ

@return String - インポート構成の実行のために生成されたCESタスクID。



注:

16ページのgetTaskflowStatusByProcessName操作を使用して、「(「タスクフロー・ステータス(要約)」に表示される)このCESタスクフロー名のステータスを取得します。

カスタム・スクリプトの操作

サブトピック

- [カスタム・スクリプトの要件](#)
- [カスタム・スクリプトの作成](#)

WebサービスAPIリファレンスは、カスタムProfitabilityServicePortTypeClientクラスの開発を目的とするJava開発者を対象としています。

カスタム・スクリプトはProfitability and Cost Management操作を使用して構築できます。

カスタム・スクリプトの要件

カスタム・スクリプトで次のコマンドを使用することで、Profitability and Cost Managementに対して使用可能なWebサービスを呼び出します。各カスタム・スクリプトには、[29ページの表14「Profitability and Cost Managementのカスタム・スクリプトの要件」](#)に説明のあるコンポーネントの一部またはすべてが必要です。

表14 Profitability and Cost Managementのカスタム・スクリプトの要件

スクリプト・アイテム	説明
ネームスペースおよび場所	<p>ネームスペースおよび場所は、サービスを含むすべてのコマンドまたは操作に使用します:</p> <ul style="list-style-type: none"> • ネームスペースはProfitability Webサービス: <code>http://profitability.webservices.epm.oracle</code>を識別します • 場所は参照しているProfitabilityService.wsdlドキュメントの場所を識別します。
サービス	各スクリプトについて、サービスを ProfitabilityService に設定すると、Profitability and Cost Managementに定義されたWebサービス操作が有効になります。
インタフェース(ポート・タイプ)	ポート・タイプ・クラスを ProfitabilityService に設定します。
操作	<p>操作とは、使用可能なWebサービスのことです。使用可能な各操作には、次の情報がAPIリファレンスで定義されています:</p> <ul style="list-style-type: none"> • 操作 • 入力パラメータ • 出力パラメータ(必要な場合) • 操作定義 • バインディング操作定義 <p>APIリファレンスのトピックを展開すると、関連コードが表示されます。</p>
入力パラメータ	<p>各操作には、入力パラメータが必要な場合があります。</p> <p>たとえば、<code>String applicationName</code>では、POVを取得する対象のアプリケーションの名前を入力する必要があります。</p>
出力パラメータ	各操作には、出力パラメータが存在する場合があります。
操作定義	サービスごとに、タスクの実行に使用される可能性のあるメソッドまたは操作がいくつか存在します。
バインディング操作定義	バインディング操作は、指定したポート・タイプの操作およびメッセージのメッセージ・フォーマットとプロトコル詳細に関する情報を定義します。

スクリプト・アイテム	説明
メッセージ	メッセージは、例外が発生した場合に表示される障害メッセージです。これらのメッセージは自動的に表示され、カスタム・スクリプトでのコーディングは必要ありません。
要素	要素は、.wsdlファイルで定義されるため、カスタム・スクリプトでのコーディングは必要はありません。
タイプ	タイプは、指定したパラメータのラッパー・タイプを表し、パラメータを戻します。カスタム・スクリプトでのコーディングは必要ありません。

カスタム・スクリプトの作成

カスタムWebサービス・スクリプトを生成する場合、サービス名を識別し、呼び出す操作を選択する必要があります。

- ▶ Profitability Webサービスのカスタム・スクリプトを作成するには:
 1. Webサービスに対して有効にするサーバーを設定します。『Oracle Enterprise Performance Management Systemインストールおよび構成ガイド』を参照してください。
 2. コーディング時に、**ProfitabilityService**サービス名を選択します。(詳細は、[30ページのProfitability and Cost Managementサンプル・クライアント・ファイルの使用](#)を参照してください。)
 3. Webサービス・クライアントを作成し、実行する操作を選択します。
 - 使用可能な操作のリストは、[5ページのProfitability Webサービスの操作](#)を参照してください。
 - 各操作のパラメータの詳細な説明は、OTNDキュメント・ライブラリ内のOracle Hyperion Profitability and Cost Management外部自動化プロセス・ガイド(WebサービスJavaDoc)を参照してください。
 4. オプション: .batまたは.shスクリプトを使用してプログラムを実行するには、新しく作成したWebサービス・クライアント名と一致する既存のファイルを編集します。

Profitability and Cost Managementサンプル・クライアント・ファイルの使用

サブトピック

- [サンプル・クライアント環境の設定](#)
- [サンプル・クライアント・ファイルの使用](#)
- [コードのコンパイル](#)

Webサービスのサンプル・クライアント・ファイルには、Profitability and Cost Managementを自動化するためのカスタム・スクリプトで使用可能なコマンドが表示され、Profitability and Cost Managementモデル内のデータが識別されます。このサンプル・クライアント・ファイルは、カスタム・スクリプトの作成を支援するためのガイドのみを目的としています。

サンプル・クライアント環境の設定

- ▶ サンプル・クライアント環境を設定するには:
 1. コマンド・ウィンドウを開きます。

2. オプション: Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspaceがインストールされているマシンと同じマシン上で作業していない場合は、サンプルにアクセスするマシンにフォルダ%EPM_ORACLE_HOME%/products/Profitability/samples/wsclientをコピーします。
たとえば、C:\wsclientです。
3. ProfitabilityServiceと関連付けられているSecurityPolicyがUSERNAME_WITH_SAML_TOKENの場合、以下にリストされたソース・フォルダから次のファイルをwsclientフォルダにコピーします。

31ページのステップ 4で、hpm_ws_client.propertiesファイル内にこれを構成設定として指定できます。

表15 サンプル・クライアントに必要なファイル

ソース・フォルダ	ファイル名
%EPM_ORACLE_HOME%/../user_projects/domains/EPMSysstem/config/fmwconfig	jps-config.xml
%EPM_ORACLE_HOME%/../user_projects/domains/EPMSysstem/config/fmwconfig	<<Associated keystore file.XXXX.jks>>
ファイルベース・セキュリティを使用している場合は、%EPM_ORACLE_HOME%/../user_projects/domains/EPMSysstem/config/fmwconfig	cwallet.sso

4. ローカル設定に合うようにhpm_ws_client.propertiesファイルを編集します:

```
#Open the HPCM WSDL URL which is to be accessed. For example:
http://localhost:19000/profitability/ProfitabilityService?WSDL (or) {DRIVE_LETTER}:/
{FILE_PATH}/FILE_NAME.wsdl hpcm.wsdl.url=http://localhost:19000/profitability/
ProfitabilityService?WSDL

#Delimiter used to separate String literals in paramters
string.delimiter=_

# Delimiter used to separate logical entities in parameters
# For example, when passing multiple POVs at a time, please use this to delimit POVs
# For example: 2009_January_Actual#2009_March_Actual when passing 2 POVs
string.logical.delimiter=#

# SecurityPolicy associated with ProfitabilityService, that needs to be used by Sample
Client.
# The sample client is programmed to work with only one of 2 values:
# a. USERNAME_TOKEN
# b. USERNAME_WITH_SAML_TOKEN
hpcm.service.security.policy=USERNAME_TOKEN

## These next two values are needed only when the security policy is
## USERNAME_TOKEN
#HSS user name for the Profitability user.
hss.username=admin

#Password for the username above.
hss.password=password123

## These next three values are needed only when the security policy is
## USERNAME_WITH_SAML_TOKEN
```

```
# Full Path of the jps-config.xml file in use.
jps.config.file=C:/wsclient/jps-config.xml

#WSS Recipient key alias name used.
wss.recipient.key.alias=adminalias

# WSS Credential Store Framework key used.
wss.csf.key=epmpcm.credentials
```

- オプション: Oracle Enterprise Performance Management Workspaceがインストールされているマシンと同じマシン上で作業していない場合は、JDeveloper 11.1.1.6.0をダウンロードしてローカルにインストールし、適切なJAVA_HOMEおよびMIDDLEWARE_HOMEフォルダを取得します。
- コマンドまたはシェル・ウィンドウから、次の環境変数を設定します:

表16 サンプル・クライアント環境の変数

環境変数	場所
JAVA_HOME	Java Development Kitが使用可能な場所: <ul style="list-style-type: none"> Windowsの場合、SET JAVA_HOME=C:/Oracle/Middleware/jdk160_29と入力します UNIXの場合、export JAVA_HOME=/usr/c/Oracle/Middleware/jdk160_29と入力します
MIDDLEWARE_HOME	Oracle Middlewareホームがインストールされている場所。 <ul style="list-style-type: none"> Windowsの場合、SET MIDDLEWARE_HOME=C:/Oracle/Middlewareと入力します UNIXの場合、export MIDDLEWARE_HOME=/usr/c/Oracle/Middlewareと入力します

- コマンド・ウィンドウで、C:\wsclientに移動し、次のコマンドを入力します:

```
hpm_ws_client.bat -help
```

使用可能なすべての関数のリストが表示されます。

- サンプル・クライアント・ファイルに指定されているフォーマットおよび操作を使用して、カスタム・スクリプトを構築します。32ページの[サンプル・クライアント・ファイルの使用](#)を参照してください。

サンプル・クライアント・ファイルの使用

サンプル・クライアント・ファイルは、Webサービスを介してOracle Hyperion Profitability and Cost Managementデータにアクセスするカスタム・スクリプトの構築をガイドすることのみを目的としています。サンプル・クライアント・ファイルは、%EPM_ORACLE_HOME%/products/Profitability/samples/wsclientから入手できます。これらのファイルは、バッチ・スクリプト(Windows OS)およびシェル・スクリプト(UNIX/Linux OS)を使用して作成されています。

▶ サンプル・クライアント・ファイルを使用するには:

- コマンド・ウィンドウで、C:\wsclientに移動します。30ページの[サンプル・クライアント環境の設定](#)を参照してください。
- 次のコマンドを入力します:

```
hpm_ws_client.bat - help
```

使用可能な機能のリストは、[5ページのProfitability Webサービスの操作](#)を参照してください。

3. 実行する操作を選択し、次のフォーマットでコマンドを入力します:

```
hpm_ws_client.bat - help <operation_name>
```

たとえば、getPovs操作の使用詳細を取得するには、次のフォーマットでコマンドを入力します:

```
hpm_ws_client.bat - help getPovs
```

4. サンプル・クライアント・ファイルを使用して操作を実行するには、次のフォーマットでコマンドを入力します:

```
hpm_ws_client.bat <operation_name> <<parameters>>
```

- **例1:** すべてのアプリケーションのリスト

たとえば、使用可能なすべてのアプリケーションのリストを取得するには、次のコマンドを入力します:

```
hpm_ws_client.bat getApplications
```

- **例2:** すべてのPOVのリスト

たとえば、特定のアプリケーションのすべてのPOVのリストを取得するには、次のコマンドを入力します:

```
hpm_ws_client.bat getPovs <<application name>>
```

- **例3:** ステージの取得

たとえば、アプリケーションのステージを取得するには、次のコマンドを入力します:

```
hpm_ws_client.bat getStages <<application name>>
```

コードのコンパイル

クライアント・サンプルは、次のフォーマットで提供されます:

- ソース・コードとして(wsclient/src/oracle/epm/webservices/profitability/client/ProfitabilityServicePortTypeClientSample.java内)
- コンパイルされたバイナリ・ファイルとして(wsclient/lib/hpcmwsclient-sample.jar内)

コードを正常にコンパイルするには、common.components.homeフォルダの場所を指定する必要があります。

なんらかの理由でソース・コードを再コンパイルする必要がある場合は、Antを使用して再コンパイルできます。Ant用のbuild.xmlファイルはwsclientフォルダ内にあります。

- ▶ ソース・コードを再コンパイルするには:

1. コマンドまたはシェル・ウィンドウを開き、common.components.homeフォルダの場所を指定します。

このフォルダは、MIDDLEWARE_HOME/oracle_commonとして定義されています。MIDDLEWARE_HOMEは、次のように設定されています:

- Windowsの場合: SET MIDDLEWARE_HOME=C:/Oracle/Middleware
- UNIXの場合: export MIDDLEWARE_HOME=/usr/c/Oracle/Middleware

2. 次のいずれかの方法を使用して、フォルダの場所をAntに渡します:

- コマンドライン・パラメータとして。例:

```
ant -Dcommon.components.home=C:/Oracle/Middleware/oracle_common
```

- `build.properties`ファイルで、編集のためにファイルを開き、`common.components.home`変数の定義のコマンドを解除します。例:

```
common.components.home=C:/Oracle/Middleware/oracle_common
```

3. ソース・コードを再コンパイルします。

ドキュメントのフィードバック

このドキュメントへのフィードバックをお送りください: epmdoc_ww@oracle.com

次のソーシャル・メディア・サイトでEPM情報開発をフォローできます:

- LinkedIn - http://www.linkedin.com/groups?gid=3127051&goback=.gmp_3127051
- Twitter - <http://twitter.com/hyperionepminfo>
- Facebook - <http://www.facebook.com/pages/Hyperion-EPM-Info/102682103112642>
- Google+ - <https://plus.google.com/106915048672979407731/#106915048672979407731/posts>
- YouTube - <http://www.youtube.com/user/OracleEPMWebcasts>

著作権情報

Oracle® Hyperion Profitability and Cost Management External Automation Processes Guide,

Copyright © 2012, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

著者: EPM 情報開発チーム

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクルまでご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT END USERS:

Oracle programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, delivered to U.S. Government end users are "commercial computer software" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, shall be subject to license terms and license restrictions applicable to the programs. No other rights are granted to the U.S. Government.

このソフトウェアまたはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアまたはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション(人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む)への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアまたはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性(redundancy)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアまたはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したことに起因して損害が発生しても、Oracle Corporationおよびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

OracleおよびJavaはオラクルおよびその関連会社の登録商標です。その他の社名、商品名等は各社の商標または登録商標である場合があります。

Intel, Intel Xeonは、Intel Corporationの商標または登録商標です。すべてのSPARCの商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc.の商標または登録商標です。AMD, Opteron, AMDロゴ、AMD Opteronロゴは、Advanced Micro Devices, Inc.の商標または登録商標です。UNIXは、The Open Groupの登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。適用されるお客様とOracle Corporationとの間の契約に別段の定めがある場合を除いて、Oracle Corporationおよびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。適用されるお客様とOracle Corporationとの間の契約に定めがある場合を除いて、Oracle Corporationおよびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

